

## むすび

---

現在我が国では、水銀の一次鉱出はなく、産業界の努力もあり、水銀の使用量はピーク時の昭和 39 (1964)年の約 300 分の 1 まで削減されました。製品における無水銀化の努力は現在も継続されており、将来的には水銀需要はさらに削減されると予想されます。また、使用後の水銀含有製品の回収も市民や自治体、産業界等の協力で行われており、産業界の副産物等と併せて、これまで蓄積した技術により環境上適正な方法で水銀の回収が進められています。現在、我が国において水銀による環境や健康へのリスクが少ない生活を全ての国民が享受できる社会が構築されているのは、これまでの各主体による努力の結晶と言えます。

しかし、我が国の高度経済成長期は、環境や人間の健康より経済成長が優先されている時代でした。この結果引き起こされた水俣病など公害による悲惨な被害の経験を教訓として、公害対策や環境政策は飛躍的に進みましたが、この道程で我が国が払った犠牲は計り知れません。水俣病の公式確認から 50 年以上が経ちますが、今もなお水俣病の症状に苦しんでいる被害者や健康不安を抱えている方がいらっしゃいます。また、水俣病は、被害者への差別や住民間の軋轢による地域社会の疲弊等までももたらし、現在に至るまで地域に大きな課題を残しています。

我が国のこのような経験と教訓を活かして、他の国においても、環境への配慮がいかに重要であるかが自覚され、水俣病のような悲惨な公害を経験することなしに、環境汚染の未然防止を図りつつ、持続的な社会が構築されていくことを願います。

一方、近年、水俣市では、失われた地域社会の絆<sup>きずな</sup>を取り戻し、地域を再生する「もやい直し」や、環境保全を通じた地域の振興に取り組んでいます。今般、条約に「水俣」の名を冠することを提案するに際しては、国内で様々な御意見をいただきましたが、「水俣条約」との命名は、世界の人々が地元の人々とともに汚染防止対策と地域の再生について前に進むという決意を示す強いメッセージになるものと考えています。水銀汚染対策に関わる世界の方々が、世界中から水俣の地を訪れ、これまでの歴史と、未来に向けて再生の歩みを進める現在の水俣の姿を自らの目で確かめていただき、それぞれの地域で取組を進めていただければと思います。

我が国は、水俣病の経験国として、これまでの経験を通して蓄積された知見や技術を今後も世界に発信し、また「水銀に関する水俣条約」の早期発効に向けて、自ら早期批准を目指すとともに、途上国への支援や働きかけを行っていきます。これにより、水銀による世界的なリスクの削減に貢献し、さらには有害物質による健康被害や環境汚染が起こらない社会の構築を目指して努力していきたいと考えています。